

eastspring  
investments

A Prudential plc (UK) company 

# イーストスプリング インド投資マンスリー

2022年3月号

## イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号

加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。

最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

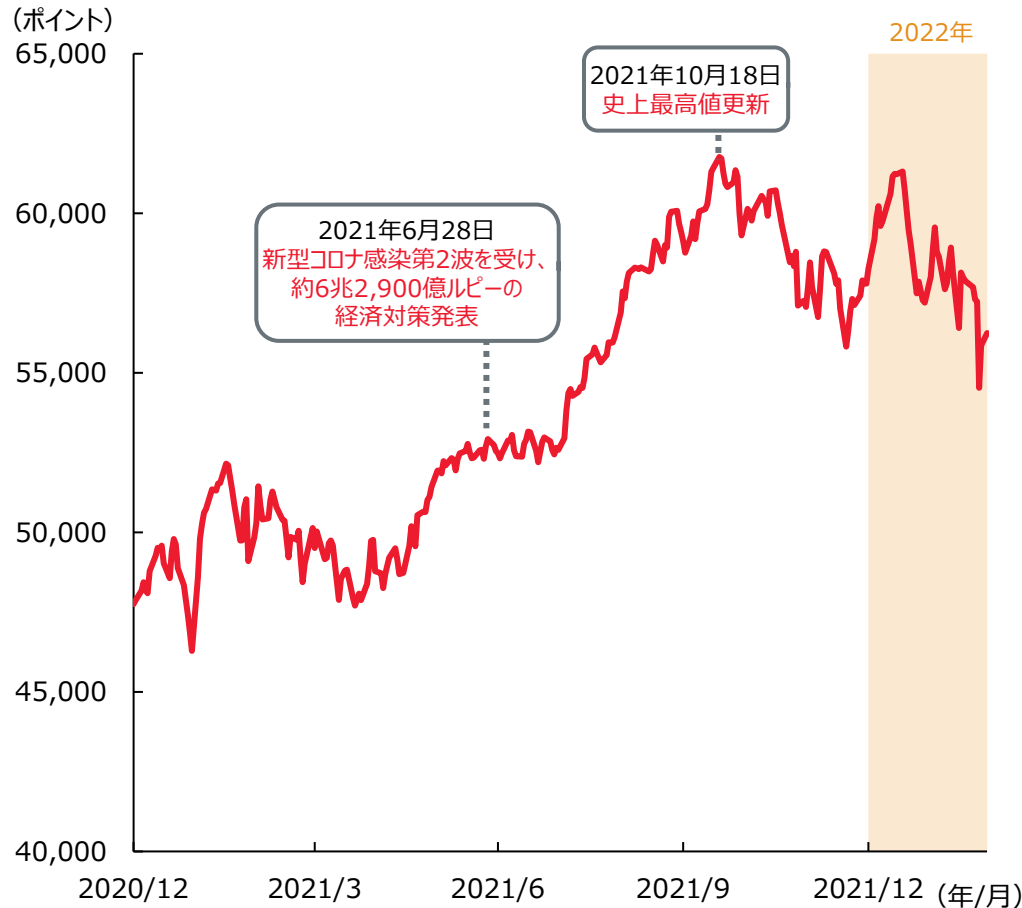
この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

インド投資マンスリー動画配信中！



# 株式：地政学的リスクの高まりを受け下落

## SENSEX指数の推移（日次、2020年12月末～2022年2月末）



## 2022年2月の振り返り

SENSEX指数は、ウクライナ情勢を巡る地政学的リスクの高まりを受け、世界的にサプライチェーンの混乱が広がり原材料費が上昇したことなどから、3%の下落となりました。なお、中型株、小型株は大型株を上回る下落となりました。ブレント原油先物価格は1か月で11%上昇し、1バレル当たり101米ドルで取引を終えました。

耐久消費財と金属を除くすべてのセクターが下落し、中でも不動産、エネルギー、自動車関連銘柄の下げが目立ちました。

売買動向では、海外機関投資家は引き続き売り越した一方、国内機関投資家は引き続き買い越しとなり、全体では12か月連続での買い越しとなりました。

## 規模別指数の期間別騰落率（2022年2月末時点）

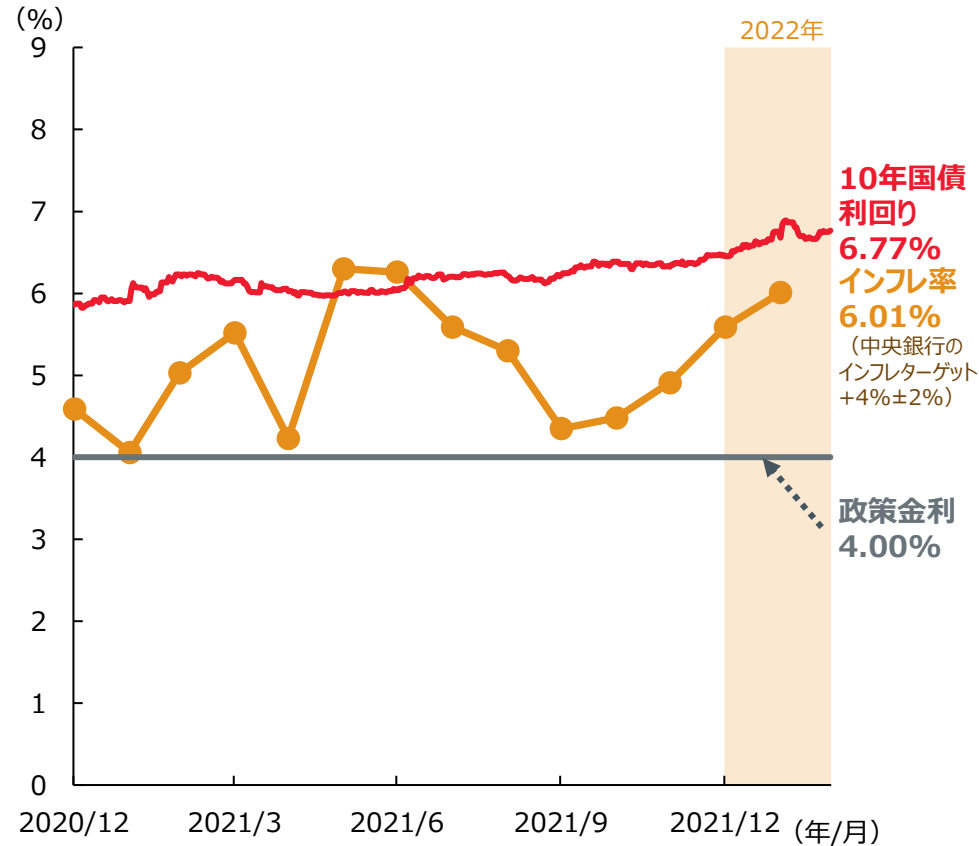
	1か月間	3か月間	6か月間
大型株 (SENSEX指数)	-3.0%	-1.4%	-2.3%
中型株 (BSE中型株指数)	-5.1%	-5.4%	-2.1%
小型株 (BSE小型株指数)	-8.8%	-4.6%	-1.0%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
※すべて配当無し（プライス）、インドルピーベース。

# 債券：インフレ率、債券利回りともに上昇

## 政策金利\*、インフレ率\*\*、10年国債利回りの推移

(日次、2020年12月末～2022年2月末)



## 2022年2月の振り返り

10年国債利回りは上昇し、6.77%で月を終えました。2月1日発表の2022年度の国家予算案で、政府による総借入額が14.95兆ルピーへ拡大すると発表されたことから、10年債利回りは一時6.95%の高水準まで上昇しました。月後半には、インド準備銀行（RBI、中央銀行）が2回連続で国債入札を取りやめたことから利回りは低下、月末には6.77%となり、月を通して不安定な動きとなりました。

なお、RBIは2月10日の金融政策決定会合で、政策金利（4.0%）の据え置きを決定、持続的な成長のため金融緩和継続の姿勢を示しました。また、14日発表のインフレ率は前年同月比6.01%となり、前月から上昇しました。

海外機関投資家からの資金は前月は純流入だったのに対し、2月は4億1,200万米ドルの純流出となりました。

## 債券利回りと利回り差の変化幅

	2022年 2月末	2022年 1月末	変化幅
10年国債利回り	6.77%	6.68%	+0.08%
10年社債利回り***	7.21%	7.23%	-0.02%
利回り差	0.44%	0.55%	-0.10%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

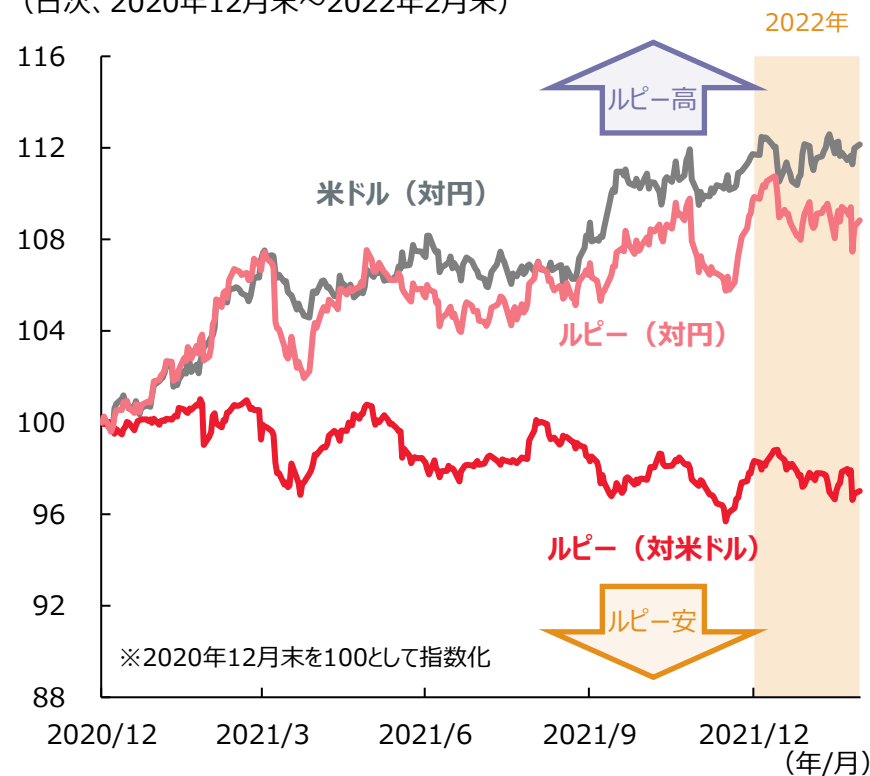
\*レボ金利、\*\*消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。新基準（2012年=100）による統計を使用。2022年1月分まで。

\*\*\*10年社債利回りはBloomberg FIMMDA India Corporate Bond Curve AAA Year Corporateの利回りを使用。

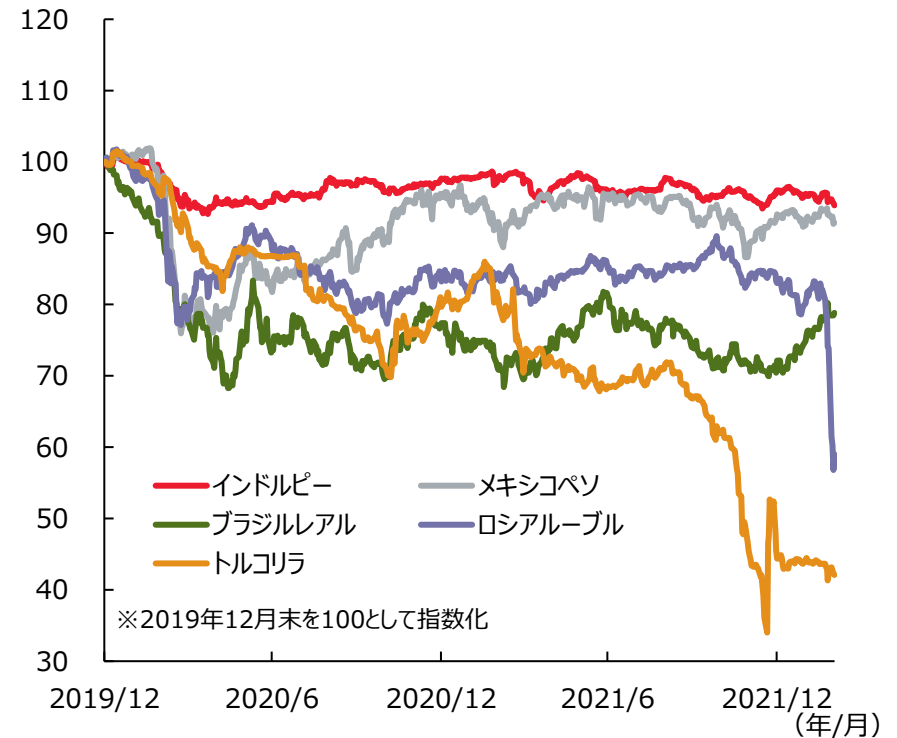
# 為替：ルピーは対米ドル、対円ともに下落

- 2月のルピーは、対米ドルで0.8%、対円で0.7%の下落となりました。
- 2020年以降のルピーの動きをみると、他の新興国通貨に比べて対米ドルで相対的に安定した推移となっています。
- インド準備銀行は通貨安定のため外貨準備を積み増しており、過去最高水準を維持しています。

**ルピー（対円、対米ドル）の推移**  
 （日次、2020年12月末～2022年2月末）



**主要新興国通貨（対米ドル）の推移**  
 （日次、2019年12月末～2022年3月3日）



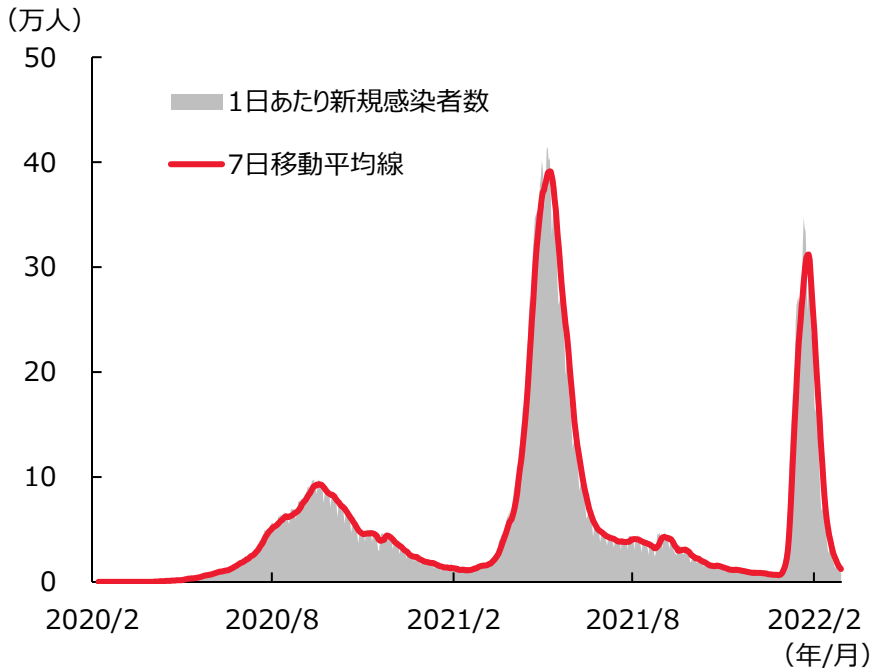
出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

# オミクロン株の影響は足元限定的に

- インドでは昨年末以降、都市部を中心に新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）の感染が急拡大し、2022年1月中下旬には1日当たりの新規感染者数が30万人前後で推移したものの、足元は1万人程度にまで減少しています。こうした感染状況の改善を受け、デリー準州政府は2月28日から夜間の外出禁止令を含む全ての規制を解除しました。加えて、4月1日からは学校での対面授業が可能になる予定です。
- ワクチン接種については、2回以上接種した人が人口の5割以上に達しています。また、1月からはブースター接種（3回目接種）が開始されるなど順調に進んでおり、のべ接種回数は約17.8億回となっています。

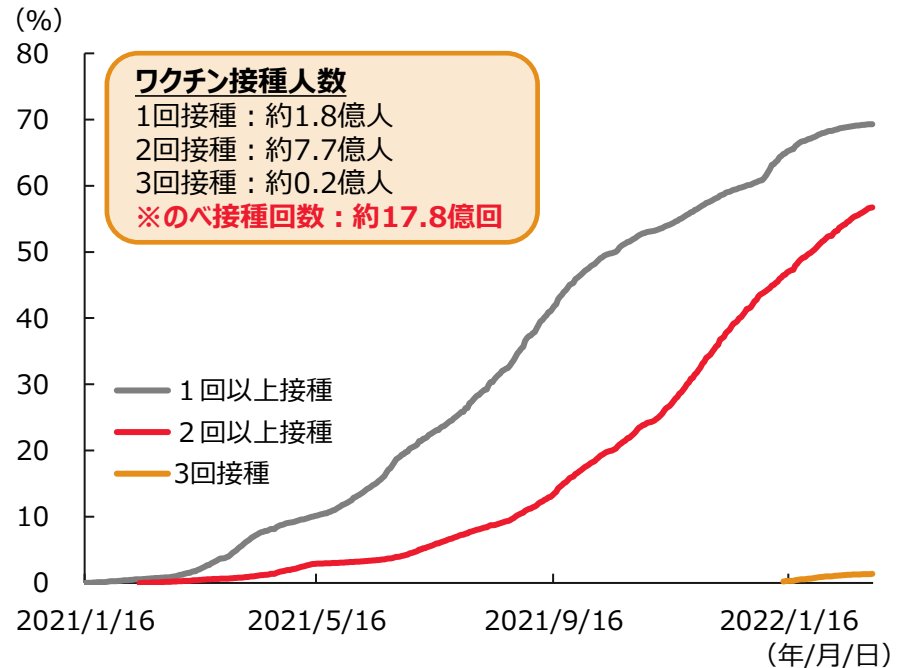
## インドの新型コロナウイルス新規感染者数の推移

（日次、2020年2月1日～2022年2月28日）



## インドのワクチン接種率の推移と接種人数

（日次、2021年1月16日～2022年2月28日）



出所：CEIC、Our World in Data、ICICIAMのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

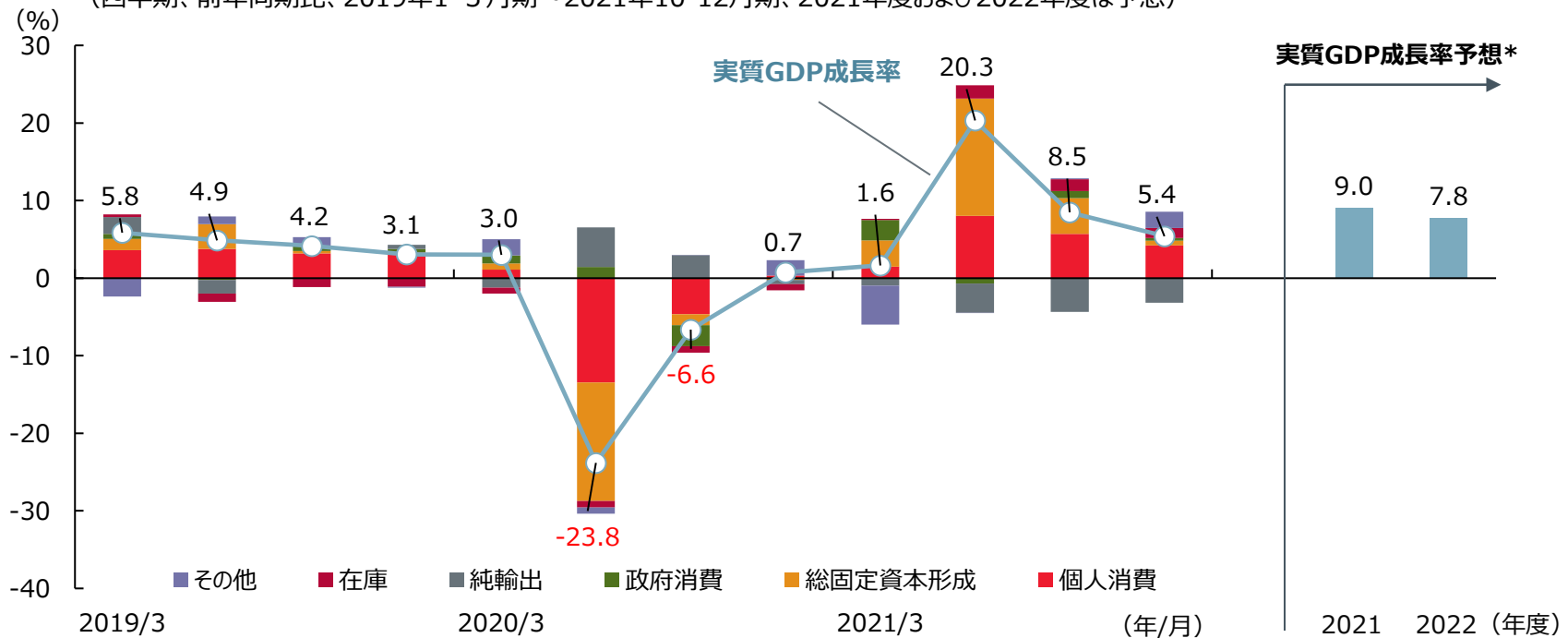


# 2021年10-12月期GDPは前年同期比5.4%増

- 2021年10-12月期の実質GDP（国内総生産）成長率は、前年同期比+5.4%となりました。前期（2021年7-9月期）から伸び率は鈍化したものの、5四半期連続でプラス成長となりました。
- 需要項目別では、GDPの過半を占める個人消費は前年同期比で大きく回復、コロナ前の水準を上回りました。また、政府消費も増加し、成長率の下支えとなりました。一方、純輸出については、前年同期比で輸出が増加したものの、輸入の増加が上回ったことからマイナス寄与となりました。

## GDPの需要項目別の寄与度

（四半期、前年同期比、2019年1-3月期～2021年10-12月期、2021年度および2022年度は予想）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
 \*予想はBloombergエコノミスト予想の中央値。2022年2月28日時点。  
 ※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。例えば、2021年度は2021年4月～2022年3月。

## 【ご参考】5Gがもたらす経済効果～インド版～

日本において2020年3月に商用化された5G（第5世代移動通信システム）サービス。インドも間もなく5G対応国となりそうです。2022年度の国家予算案において、2022年中に5G周波数オークションを実施することや、PLI（生産連動型優遇策）を通じて5Gのエコシステム構築を後押しすることが発表されました。

### ～5Gによって期待されること～

#### ① 製造業

- ✓人工知能が大量のデータを分析することで、品質管理や精度確認などを自動化。
- ✓危険な作業や単純作業でのロボットの使用。
- 生産性の向上により更なる製造拠点の誘致や国際競争力の向上。

#### ② スマートシティ

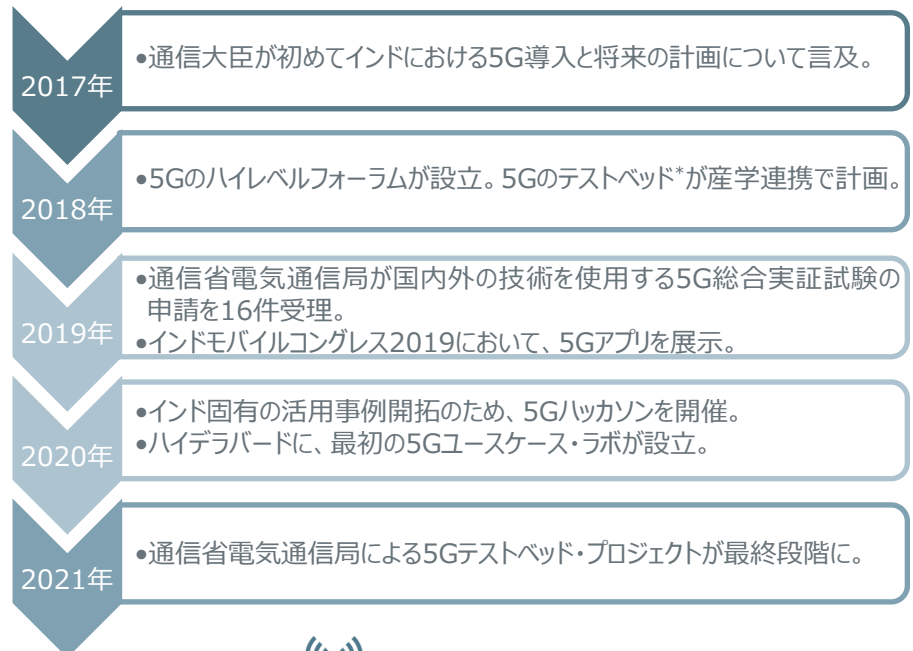
- ✓都市の大気の状態、エネルギー使用量、交通パターンなどのデータを監視・収集できるIoTセンサーによって当局による運営が効率化。
- ✓隣接する車両や道路インフラとリアルタイムに通信ができる自動車の登場。
- 渋滞の減少により、経済損失の解消。

#### ③ 農業

- ✓天候、作物の健康状態、化学物質のレベル、収穫量などのデータによって労働力の最適な配分、コスト削減、収穫量の確保が可能に。
- 生産性の向上による所得の上昇。

5Gの商用化に向け動き出したインド、今後のデジタル経済の動向に注目です。

### インドにおける5G展開のこれまでの歩み



### 5Gってなに？



「超高速（・大容量）」、「超低遅延」、「多数同時接続」が特徴。あらゆるモノ・人などがつながるIoT時代のICT基盤として期待されています。

出所：IBEFのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

\*システム開発などで用いられる実証実験用環境の総称。

## 当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

※ MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

※ 業種区分は、原則としてMSCI/S&P GICSに準じています。GICSに関する知的財産権は、MSCI Inc.およびS&Pにあります。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号  
 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会